新図書館＋複合施設についてのワークショップを開催しました！



取手駅前にできる新図書館＋複合施設について、テーマに沿って参加者みんなで考えるワークショップを実施しました。市民向け、高校生向けの全３回のワークショップの様子をお届けします。

1 第1回市民ワークショップ

本の魅力はどうすれば届くのか？

日時：2026年7月26日(日)14:00-16:00
参加者：26名

本の価値を言語化するワークでは、本そのものが持つ役割から、人や社会との関わりまで幅広く意見が出されました。そしてその価値を伝える方法を考えるなかで、人による本の紹介や、思わず本を手に取りたくなる空間づくりなど、新たな図書館活動や施設計画のヒントとなるアイデアが見えてきました。







2 第2回市民ワークショップ

図書館はまちとどのようにつながることができるのか？

日時：2026年8月2日(日)14:00-16:00
参加者：24名

まずは、取手のお気に入りスポットとして、豊かな自然やお店、施設、イベントなど、まちのさまざまな魅力を挙げていきました。さらに、そうした場所に本を置いたり、地域と連携したイベントを図書館で開いたりするなどのアイデアを挙げていくことで、新図書館の中だけではなく、新図書館が、まち全体にどのように波及していくのかを考えるきっかけとなりました。







3 高校生ワークショップ（こども未来会議２０２６）

本の可能性を探る

日時：2026年7月28日(火)13:30-16:30
参加者：32名

会場に用意された200冊の本を自由に手に取ったり、並べたり、本の一節から対話を広げたりと、体を動かしながら本と向き合うワークを行いました。はじめは本の価値について、「たいくつ」「なくてもいい」など否定的な意見も見られましたが、ワークを通じて、本が人と人をつなぎ、交流のきっかけになるという新たな価値を発見したという意見が多く挙がりました。図書館が新しい出会いや体験を生み出す場所となる可能性が見えてきました。





